Osaka University Knowledge Archive

Title	書きことばにおけるパラ言語情報と非言語情報 : ウェブログを例として
Author(s)	岸本, 千秋
Citation	現代日本語研究. 2019, 11, p. 59-71
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73340
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

書きことばにおけるパラ言語情報と非言語情報

―ウェブログを例として―

Paralinguistic Information and Nonverbal Information in Written Language:
The Case of Blog

岸本　千秋
KISHIMOTO Chiaki

キーワード：ウェブログ，ウェブ記号，パラ言語情報，非言語情報

要　旨

ブログの文章の特徴の一つとして，フェイスマークなどの記号類（ウェブ記号）が多く使われることが挙げられる。ウェブ記号の意味や機能については，強調，念押し，また，感情，感覚を伝達する際のサポート等が言われる。本稿では，それらが音声情報をも「表記」していることをとらえることを試みる。具体的には，パラ言語情報，非言語情報の機能や音声要素を参考にして，①声の大小・高低，音の強調，イントネーション，アクセント，②感情，気分，③模倣，物真似，④笑い，⑤泣き，涙，怒り，⑥その他の６項目から考える。

１．はじめに

本稿は，ブログに散見されるウェブ記号[1)]と文との関係を観察することで，書きことばに見られるパラ言語情報と非言語情報について整理，記述することを目的とする。中でも，本稿では，カッコつき文字[2)]取り上げる。

ブログの文章は，書きことばよりも話しことばに近い文体をもつ。また，ウェブ記号は，文中よりも文末に多く現れる傾向があることから，モダリティと強く関連することが指摘されている（岸本 2018）。しかし，そうであれば，ウェブ記号は，話しことばにおけるモダリティを担う超文節要素に相当するのではないかという疑問については，まだ，考察できていない。

本稿では，これらのことを前提に，これまで取り上げられなかったウェブ記

号が，パラ言語情報，非言語情報を，（完全ではないが）書き表している可能性について記述することを試みる。話しことばに近い文体をもつ書きことばが，どれほど，より話しことばに近づこうとしているかについて，ことばと記号の面からとらえようとするものである。

本稿が対象とするデータは，次のようなものである。

(1) 明日デズニーランド行ってきます（東北なまり風に）

この例では，文末に「東北なまり風に」というカッコ付き文字が付加している。これによって，二重下線部の「デズニーランド」が「東北なまり」であることを説明している。

(2) 酷い・・・私が何をしたっていうんだぁぁぁぁッ！！（絶叫）

この例は,「私が何をしたっていうんだぁぁぁぁッ！！」だけで大声で叫んでいることが推測できるが，さらに,「絶叫」が付加することで，より「声」のイメージが具体的につかめる。

上の例のように，ウェブ記号は直前の文の内容を補足したり訂正したりする役割をもつとされる[3)]が，カッコ付き文字に限って言えば，カッコ内に意味をもつ漢字や語句があり，フェイスマークや絵記号などに比べると，その意味が比較的とらえやすい。本稿の対象をカッコ付き文字に限るのは，そのためである。

以下，２節では,「パラ言語情報」と「非言語情報」についての確認を行う。３節では，ブログの文とウェブ記号との関係において，これまでに明らかになっている点を確認する。４節では，調査データについて述べる。５節では，書き表されたパラ言語情報と非言語情報について具体例を挙げて記述する。そして，６節で，この試みについての今後の課題を述べる。

２．パラ言語情報と非言語情報

まず,「パラ言語情報」と「非言語情報」について，基本的な事典と先行研究を引用しながら確認する。話しことばがもつ情報の分類は，現在，言語的情報，パラ言語的情報，非言語的情報の３分類が広く受け入れられており（2.1 節），「意図や態度はパラ言語情報」,「個人の性質・感情は非言語情報」という考え方が一般的である[4)]。

２．１．藤崎博也(2005)

藤崎(2005)では，音声の情報を，言語的情報，パラ言語的情報，非言語的情報の３つに大別している。以下，長くなるが引用する。

> ヒトの音声は，話者がそれを意識するか否かに関わらず，種々の情報を表現している。筆者はこれらの情報を (1)言語的情報，(2)パラ言語的情報，(3)非言語的情報，の３つに大別している[1]。([1] は藤崎(1994)のこと。筆者注)　(‐中略‐)
>
> 一方，音声は上記のような離散的な情報ばかりでなく，それ以外の情報も表現することができる。たとえば，文字による表記では同じ平叙文でも，断定／疑問／勧誘／反論など，さまざまな意図を込めて発音し，その意図をかなり明瞭に相手に伝えることができる。また，丁寧／ぞんざい，改まった／くだけた，などの話者の態度の区別を表すことができる。さらに，ゆっくり／早口，大声／小声，などの話し方（スタイル）を変えることにより，発話がどのような聞き手やその置かれた状況を対象としたものかを表すこともできる。(‐中略‐)すなわち，疑問や断定の意図，あるいは丁寧な態度は，その表出に関わる特徴を調節することによって，意図や態度の程度までも表現することができる。筆者はこの種の情報を言語的情報と区別して，パラ言語的情報と定義する。ただし，言語的情報とパラ言語的情報に共通なのは，いずれも話者が音声によって表現するべく，意識的に選択するという点である。なお，上では，「疑問」の意図に関する情報をパラ言語的情報に属するとしたが，「疑問」に関する範疇的な情報は，たとえば終助詞「か」を平叙文の末尾に加えることにより，言語的（すなわち符号的）にも表現することが可能である。ただし，それによって表現が可能なのは，あくまで範疇的・離散的な情報のみであり，連続的・定量的な情報は棄却される。この場合に表現される情報は，「疑問」に関する「意味」の情報であり，「意図」の情報とは区別すべきものである。換言すれば，意味は言語的，意図はパラ言語的である。
>
> 音声により表現される第３の種類の情報は，たとえば話者の個人的な特徴や，年齢・性別・健康などの身体的な状態に関するもの，あるいは気質・感情などの心理的な状態に関するもので，特定の発話の言語的な内容

とは関係なく存在し，また，一般には，話者が意識的に制御していないものである。もちろんこれには例外もあり，個人的な特徴・年齢や感情も，話者が意識的に模擬することは可能であって，いわゆる声帯模写や，演劇における感情の表現はそのよい例である。

ここでの「第３の種類の情報」は非言語情報と呼ばれるものである。また，［注］の藤崎(1994)には，次の図が示されている。

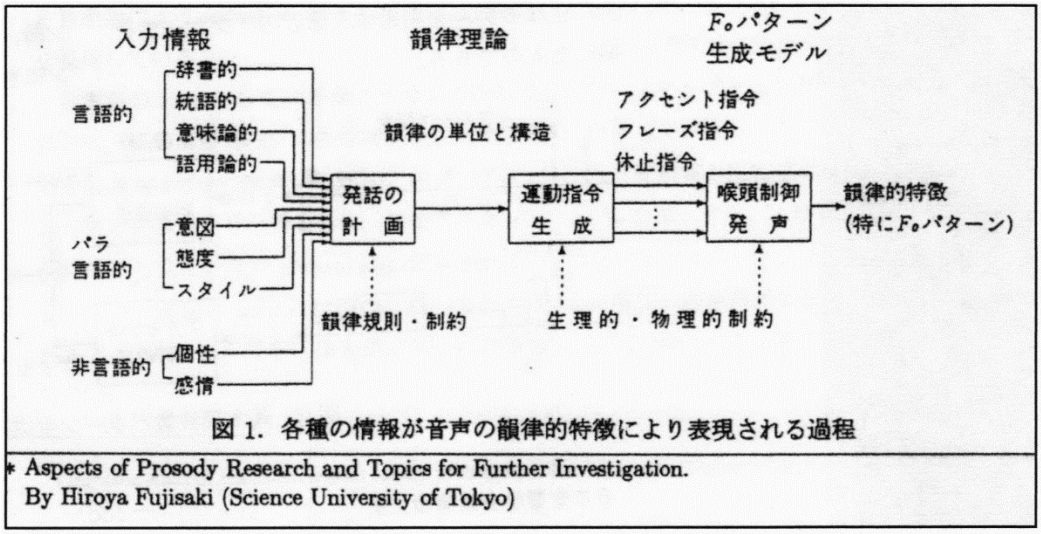

図１：藤崎(1994)による音声の韻律的特徴が表現される過程

２．２．『新版日本語教育事典』［執筆者：前川喜久雄］

『新版日本語教育事典』［執筆者：前川喜久雄］でも，日本では，言語情報，非言語情報，パラ言語情報の三分法が普及しているとしている。

パラ言語情報(paralinguistic information)とは，話し手が聴き手への伝達を目的に意図的に表出する情報のうち，イントネーション，リズム，声質などの韻律特徴によって伝達されることが多いために，文字に転写されることがないかまれである情報のことをいう。発話の意図，話し手の態度，ある種の強調の有無などである。たとえば「ナニヤッテンノ」というテキストは，「質問」のほかに「叱責」「からかい」などのパラ言語情報を意図して発することができる。

話しことばによって伝達される情報のなかには，通常，言語学が研究対

象とする情報のほかにも多くの情報が含まれている。この種の情報をどう分類するかは国により学派によって異なるが,日本では①「言語情報」 ②「非言語情報」③「パラ言語情報」の三分法が普及している。(- 中略 -)

次に, ②「非言語情報」は声の性差,年齢差,感情,気分など,話し手の身体的・生理学的特性を不可避的に反映して生じる種類の情報である。非言語情報は,話者が意図的に制御することができない情報であり,離散的なもの(性差)も,連続的なもの(年齢)もある。非言語情報には,語情報に比べれば明らかな言語普遍性が看取される。さらに,時間的な分節が明瞭でなく発話の全体にわたって分布することも非言語情報の特徴である。

③ 「パラ言語情報」は,話し手によって意図的に制御される点,発話中で局所的に分布しうる点においては言語情報と共通しているが,情報に強弱の連続的変化を伴いうること,基本的には文字に転写されることがないことの 2 点において,言語情報と異なる。

なお,書きことばでも種々の補助語号でパラ言語情報の伝達が試みられるが,話しことばに比べると伝達の精度は格段に低い。また感情が「非言語」「パラ言語」のいずれに属するかについては議論が分かれることがある。

本稿は,「パラ言語情報」「非言語情報」が，書きことばとしてどう現れるかを記述することが目的であり，この２つを明確に区別することは目的ではない（そもそも明確に区別することは難しい)。したがって，収集データを,「パラ言語情報」と「非言語情報」別に分類して示すことはせず，以上の解説を参考にして，書きことばに反映される，あるいは，反映が可能である「パラ言語情報」「非言語情報」を示す。ただし，用例は，いくつかのグルーピングが可能であると考え，本稿では，次の項目を立てる。

①声の大小・高低，音の強調，イントネーション，アクセント

②感情，気分

③模倣，物真似

④笑い

⑤泣き，涙，怒り

⑥その他

なお，用語の使用については，次のようにする。藤崎(2005)では「パラ言語

的情報」「非言語的情報」,『新版日本語教育事典』では「パラ言語情報」「非言語情報」とされているが,本稿では,『新版日本語教育事典』の「パラ言語情報」「非言語情報」とする。

３．文とウェブ記号との関係

用例を示す前に,まず,ウェブ記号と文との関係を確認しておく。岸本(2017)では，ウェブ記号が付加された文と付加されていない文とを比較し，ウェブ記号が付加する文には，有意に，感動詞，形容動詞，副詞が多く使われることを明らかにした。また,このことに関連して,下の(3)のような例から,感動詞「はぁ」の直後ではなく文末にウェブ記号「♪」が出現することについて考察した。そこでは，主観的な態度や意図を表すモダリティは文末形式に現れやすいことから，ウェブ記号等も文末で用いられやすいことにも言及した。

(3)はぁ，明日が楽しみだなぁ～♪

この例では,「楽しみ」な気持ちを，小文字の「ぁ」と長音記号によって表しているとともに，ウェブ記号の「♪」によっても書き手の気分や感情に強く関与していることが考えられる。「♪」があることで，書き手の意図がよりはっきりと分かるものである。何より，感動詞を含む文が有意に多いということは，感情に関係する語とウェブ記号とが共起しやすいことでもあり，ウェブ記号がパラ言語情報，非言語情報を書き表す可能性をもつことにもつながる。

４．調査データ

ウェブ記号は，ブログのほかにも，Twitter や LINE，Facebook などのＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に多く確認される記号類であるが，ここでは，次のサイトからの収集データを使用する。

・さるさる日記（http://www.diary.ne.jp/i/）

・日記うぇぶ３―無料の日記レンタル―（http://sv.mcity.ne.jp/D/）

これら２つのサイトは，インターネットが一般に普及し始め，ブログサイトが登場し始めた初期の，1990 年代後半から 2000 年代初期にかけて開設されたものである。進化や変化が目覚ましい電子メディアという媒体の特性を考慮すると,近年は記号類も種類がバラエティーに富むといった変化が見受けられる。

そのような点においては，できるだけ新しいデータを収集し分析対象にすることにより，以前と比較してどれほど新しい種類の記号が誕生しているかといったことを知るメリットはあろう。しかし，筆者の観察によれば，種類が増えることはあっても，出現位置が変わるなどの極端な用いられ方の変化は見られない。したがって，本稿の目的において，最新のデータか否かという点はさほど大きな問題ではないと考える 。

「さるさる日記」に関しては，19 歳から 22 歳の書き手から，「日記うぇぶ３―無料の日記レンタル―」からは，10 代後半～30 代前半のユーザーが書いたものを中心としてデータを収集した[5)]。これらから，計 16,881 文を収集し，その内，本稿では，カッコ付き文字 875 例を対象とする。

５．書き表されたパラ言語情報・非言語情報

以下，ウェブ記号が，「パラ言語情報」「非言語情報」を表しているものについて，現段階で考えられるグルーピングを行う。

５．１．声の大小・高低，音の強調，イントネーション，アクセント

音声の要素として，声の大きさや，音の高さのレベル，強さの程度，また，文のイントネーションや語のアクセントなどを書き表しているものを挙げる。

(2) 酷い・・・私が何をしたっていうんだぁぁぁぁッ！！（絶叫）　（再掲）

(3) 暑いのは人混みのせい（ぼそ

(4) 春日井先輩は太るって言ってたけど，おいしいモノは我慢しちゃいけませんっっ!!（力説）

(5) あのね（アクセント微妙

(2)の「私が何をしたっていうんだぁぁぁぁッ」は，単に大声を出しているだけではなく，カッコ付き文字の「絶叫」によって，ありったけの声で叫んでいることを表している。(3)は，「ぼそ」によって，「暑いのは人混みのせい」が小声のつぶやきであることが分かる。これは，カッコ付き文字がなければ，ボソッとした言い方であることは分からない。(4)は「いけませんっっ」と強く発音し，それが力を込めた「力説」であることを表している。(5)は，「あのね」の「アクセント」の位置が標準とは異なっていて，「微妙」であることをカッコ付

き文字で示そうとしているものである。

５．２．感情，気分

感情や気分を表している例は非常に多い。喜怒哀楽を表した内容に，それに対応するカッコ付き文字が付されている。

(6) あ！そうそう今日意外と暑くなかったねぇ今日は風が心地よかった(嬉)

(7) 昨日のボクの様子を見て，心配してくれたらしく，今日は従兄弟が妹さんと一緒に，観光に連れていってくれる事になった！（喜）

(8) あー，日本語のクラスに入れてもらえますように（はぁと）

(9) んで,帰ってきたらネット友から手紙＆誕生日プレゼントがぁ･･･(愛)

(10) 春日井先輩は体温低いって言ってたけど，先輩のぬくもりがあったかかった・・・・・・。(悦)

(11) な，何とかGWイベント用に新刊用意出来ました。ヨカッタ…。(安心)

(12) んー，やっぱり強歩大会のせいだなこんちくしょーー！（怒）

(13) 本当に大丈夫なんでしょうか…（不安）

(14) イベント，蹴りました（滅)。

(15) 視聴覚室覗いたら，春日井先輩がいたので，笑われるの覚悟でネクタイの結び方を教えてもらう・・・・・・。(恥)

(16) う～～ん。でも・・・・・(悩)

(17) でもこっちが落ちててうまく話せず。くぅっ（悔)。

上の各例は,「感情」や「気分」をカッコ付き文字で表しているものである。(6)は「嬉」というカッコ付き文字を付けることで,「暑くなかったねぇ」「心地よかった」という箇所に,「嬉」しいという感情が乗せられていると言える。「嬉」しいことをパラ言語情報として意図的に示しているものである。同様に,(7)では,「連れて行ってくれることになった」を「喜」んでいることを，意図的に表出している。また，単純な喜怒哀楽のほか，(11)「安心」，(13)「不安」，(15)「恥」，(16)「悩」などもあり，それぞれ，余韻を表す「・・・」が同時に使われている点からも音声の要素と関係することがうかがえる。

５．３．模倣，物真似

模倣や物真似は，意図的に行うものである。次の例は，模倣や物真似の対象が使う表現を言語情報として示し，それを，カッコ付き文字でさらに説明を加えているものである。

(1) 明日デズニーランド行ってきます（東北なまり風に）　（再掲）

(18) あお兄ちゃんに反対されてしまうかしらねぇ～？（お婆ちゃん風に）

(19) ダメな時はダメです。こういう時は，「次行きましょう，次どうぞ」（いかりや長介風）です。

(20) 昨晩から痛痒かったので，おそらくものもらいだと思っていたのがジャストミ～～ト！！（福澤アナ風）

(21) (￢。￢)・・・・(￣ー￣)・・・・＼(・o・)/正解！（みのもんた風）

(1)は先にも説明した通り，「デズニーランド」が「東北なまり」のように発音されることを，カッコ付き文字で念押しをしている。(18)～(21)のカッコ付き文字は，いずれも「～風」となっている。(18)は，5.1節のイントネーションともかかわるものである。「お婆ちゃん」という属性をカッコ付き文字にすることで，直前の文のイントネーション，テンポ，声質が年配の女性であることを示している。(19)～(21)は，それぞれ著名人が用いる定型句を直前に示し，リズムやテンポ，ポーズ，また音の伸ばし方などの特徴について物真似し，それをカッコ付き文字で表している。

５．４．笑い

感情が表出したものとして，「笑い」は多数の用例がある。思わず笑ってしまう場合はではなく，意図的に笑う，または，他者に笑っていることをあえて示している場合はパラ言語情報だと言える。とすると，カッコ付き文字として「笑」うを表記した場合には，必ず意図して「笑」っていると言える。次の用例は，それぞれ，様子が異なる笑いをカッコ付き文字としている。

(22) しかしまた変なことしてたねLAIDさん！（失笑）

(23) いろいろあったけど，楽しかったね・・・・・・。（微笑）

(24) 今度からもっとちゃんとタイミングよく更新しなくっちゃね，（痛笑）

(25) いや～，どうやらまだ未練が残ってるらしくてねぇ，色々と（泣笑）

(26) あ，そうそう。今日はバイト無いのに呼ばれました（苦笑）

(27) そのまま洗濯機を回したらきっと渦の中で戯れるんでしょうね。あはは（乾笑）

(28) これでもか，というほどのアイドル映画でした（鬼苦笑）

(29) もう，全身全霊をかけて吃驚した（笑）

興味深いのは，直前の内容によって，それぞれ熟語が使い分けられているところである。たとえば，(23)では，「楽しかったね・・・・・・」と「・」を連続させて余韻を示し，かすかに笑う「微笑」というカッコ付き文字を付加している。内容とカッコ付き文字との対応が意識して行われていると言える。(13)の「未練が残ってる」に対しては「泣笑」，(14)の「バイト無いのに呼ばれました」には，「苦笑」が対応している。また，(15)は，笑い声を「あはは」と示すだけではなく，その笑い声の質について「乾笑」というカッコ付き文字でメタ的に説明している。

５．５．泣き，涙，怒り

(18) 老化始まる・・・！？（号泣）

(19) 嗚呼，あたしのあゆへの愛はこんなモンなのか～（涙）

(20) 昨日から念願の７連休が始まりました！（感涙）

(21) んー，やっぱり強歩大会のせいだなこんちくしょーー！（怒）

これらの例も「笑い」と同様に，意図的に「泣く」ことや「怒る」ことを表出し，それをカッコ付き文字たに表したものである。

５．６．その他

以上に示した例以外にも，音声の情報として示されるものがある。グルーピングすることが難しいが，意図的に感情に関わる音声を表出していると判断できるものである。

(22) もう見ないもーん。(←舌打ち)

(23) で，今日はこれから投函。はあぁ･･･（嘆息）

(24) 東京は行かないし・・・行ける程金もないし（溜息）

(25) それから，それから，ギャラリーも公開しました！がんばりましたよ！誰か誉めて下さい！（誇らし気に）

(26) まぁ～その分打つからいいかぁ～！（あっけらかん）

(27) 飲めないです。日本酒なんか。喉が痛くなります。（きっぱり）

(22)「舌打ち」，(23)「嘆息」，(24)「溜息」などは，「笑い」，「泣き」などと同様，言語ではない音声として表出されるものである。これらが意図的に表出されていることをカッコ付き文字が示しているものである。(25)「誇らしげ」，(26)「あっけらかん」，(27)「きっぱり」などは，態度の表出としてとらえられる。

６．まとめと課題

以上，ブログに見られるカッコ付き文字について，パラ言語情報，非言語情報との関係を記述することを試みた。その分類としては，①声の大小・高低，音の強調，イントネーション，アクセント　②感情，気分　③模倣，物真似　④笑い　⑤泣き，涙，怒り　⑥その他　の６つを立てた。しかし，それぞれの項目のレベルが一定しているとは言いがたい。細かすぎる分類は，かえって混乱することも考えられる。再考の必要がある。

書きことばを音声と関連付けてとらえようとする本稿の出発点は，ウェブ記号が文頭や文中ではなく，文末に多く出現するのはなぜか，その理由を考える延長線上にある。

日本語では，モダリティ要素は文末に現れる。ウェブ記号は感情や感覚を表す助けとなるとも言われる。だから，ウェブ記号は文末に出現するということが考えられる。そうであれば，ウェブ記号は，話しことばにおけるモダリティを担う超文節要素に相当するという考え方もあるのではないか，という仮説である。この仮説について考えるため，本稿では，まずは用例を確認することに徹した。分類の再確認を含め，考察については今後の課題である。

注

１)「カッコ付き文字」,「フェイスマーク」,「絵記号」をまとめて「ウェブ記号」とする。

２）丸ガッコ・パーレン（　）でくくられた文字（まれに，後ろのカッコが落ちる場合もある）で，多くはその直前の内容が表す書き手の意図を補足した

り情報を追加したりする機能をもつ。かっこ内に入る文字はそれだけで意味を成すかどうかは問わない。文末，あるいは文の途中に記される。1 字以上，文節数 2 以下とする 。文節数 2 以下とするのは，漢字，句レベルの，ある程度短い内容を対象とする便宜的な措置である。ブログ以外の書きことばにおいても，説明などを付け加えることを目的として，文末，あるいは文中に（　）でくくられた文言が入る場合は多々あるが，たとえ（　）でくくられていても際限なく長い文は対象としないという意図である。

3）岸本(2018)で，ウェブ記号はケド節に有意に付加し，ケド節がもつ前言の補正，訂正，補足を行うこと，また，緩衝機能をケド節と共に担うことを指摘した。

4）『日本語学大事典』(2018)［執筆者：郡史郎］には，藤崎の 3 分類に加えて，パラ言語情報と非言語情報とを区別しないことについて，「すべてをまとめて『パラ言語的』ということもあれば，『パラ言語・非言語』ということもある」という記述がある。また，森(2012)でも，藤崎の 3 分類を出発点として，従来，パラ言語情報・非言語情報と呼ばれてきたものについて，再分類が試みられている。

5）「さるさる日記」では，この年代の登録者がもっとも多いことを根拠とする。また，ウェブ記号の使用についても，一般的に若い年代の方が使用に積極的であることが十分に推測できる。

参考文献

岸本千秋(2017)「ウェブログの計量的文体研究―文とウェブ記号の関係を中心に―」『阪大日本語研究』29 71-99，大阪大学大学院日本語学講座

岸本千秋 (2018)「ウェブログの計量的文体研究―文末表現とウェブ記号との関係を中心に―」『阪大日本語研究』30 17-39，大阪大学大学院日本語学講座

藤崎博也(1994)「韻律研究の諸側面とその課題」『日本音響学会平成 6 年秋季研究発表会講演論文集－1－』287-288，日本音響学会

藤崎博也(2005)「音声の音調的特徴のモデル化とその応用」文部省科学研究費特定領域研究「韻律に着目した音声言語情報処理の高度化」研究成果報告書　http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/tokutei_pub/houkoku/model/fuji

saki.pdf（2019 年 1 月 1 日最終アクセス）
前川喜久雄・北川智利(2002)「音声はパラ言語情報をいかに伝えるか」『認知科学』Vol.9(2002) No.1 pp.46-66 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcss/9/1/9_1_46/_pdf（2019 年 1 月 1 日最終アクセス）
森大毅（2012)「話し言葉が伝えるものとは，結局何なのか？－概念の整理および課題－」387-392,『第 1 回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』

（武庫川女子大学言語文化研究所研究員）